

18) 靈的エクササイズ 12. 2020年4月26日 (日曜日)

第一朗読 使徒言行録2：14、22-33

第二朗読 第一ペトロ1-21

福音 ルカ24：13-35

父と子と聖霊の御名によって、アーメン。

復活されたイエスとイエスの御母おとめマリア、私たちの御母は賛美されますように！

兄弟姉妹の皆さん、私は今日の朗読箇所を読んだとき、紀元200年前にローマに住んでいたカートという知識人のことを思い出しました。彼は議論や会話のあと、どんな時もいつも同じ言葉で締め括（くく）っていましたが、それは、「カルタゴは破壊されるべきだ」という言葉でした。

北アフリアのカルタゴは非常に重要な場所になって来たからだという理由です。カルタゴは古い町で、すでに一度破壊されたことがあります。彼はまたこの町が破壊されるのではないかと危惧していました。実際、カートの死後のことですが、カルタゴはローマによって破壊されたのです。（ポエニ戦争）

兄弟姉妹の皆さん、使徒たちはいつも同じことを話しました。彼らは自分たちの体験したことを話すのをやめることができなかったのです。キリストのメッセージは理論ではありません。哲学でも、他の何ものでもありません。

それは一つにまとめられるものです。例えば、第一コリント15章3、4節に書いてあることです。

「最も大切なこととしてわたしがあなた方に伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてある通りわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてある通り三日目に復活したこと。」

「聖書に書いてある通り」神にはご計画があります。律法主義者であったパウロ（サウル）ですが、後になって聖書を通して神のご計画を知ります。

エマオの弟子たちは、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、私たちの心は燃えていたではないか」と言っています。

聖書は、人間が作り出した物語ではありません。ペトロはのちに、聖書は神の生ける言葉であると言っています。（第一ペトロ1：22から2：4参照）

「キリストは私たちの罪を贖うために死んだ」という事実の上に私たちの信仰があります。私たちがこれを受け入れなければ、キリストの死は無駄になるのです。

昨今では、「神父さま、罪ですか？ それはもう古いですよ。中世の話です。罪なんてないですよ」という人がいます。もし、神との関係を持たずに生きるなら、その人にとって罪は存在しないでしょう。

私のところによく来る人がいます。この方は学識のある人なのですが、「罪とは何ですか?」と、いつも私に質問していました。私はある時、説教の中でこのように話しました。「私たちは、言葉や態度で人を傷つけたり、悲しい思いをさせてしまったとき、それを感じることができます。それが罪です」すると、ミサ終了後、その人は香部屋にやって来て、「神父さま。わかりました。何が罪かがわかりました。私が誰かを悲しませてしまうことなのですね!」と言ったのです。

罪は、共同体や友人との関係を損ないます。友情や愛に傷をつけます。悲しみが生じたり、互いの間に距離が生まれたりします。この何とも言えない距離感を、私たちはよく経験するのではないのでしょうか?

人間同士だけではなく、私たちは神に対して同じ態度をとります。これが罪です。すると、神との距離が開くのが感じます。神を悲しませます。私たちよりも、神が先に悲しまれるのです。

しかし、私たちが聖書を開くなら、真理を開くなら、私自身が神との間に隔たりをとったことに気づきます(罪を自覚できます)。

神との間にできた溝を埋めることができるのは、神だけです。

ですから使徒たちは、「キリストは私たちの罪のために死なれ、葬られた。彼は本当に死んだ。しかし、三日目に復活された」ということを、何度も何度も証しをすることをためらわなかったのです。

兄弟姉妹の皆さん、キリストがなされたことは、今の私たちにも有効です。

私たちはイエス・キリストによって洗礼を受けました。

当時の洗礼は、死と復活を象徴して、水の中に身体を沈めて、水から出ることで授けられました。洗礼によって、私たちは白い衣、キリストを着る者となったのです。

私たち自身の正義ではなく、イエス・キリストの正義、キリストの愛を纏(まと)う者とされたのです。(エフェソ4:23-24参照)

キリストは私たちのすべての罪を洗い清めてくださいました。そして、ご自身の清さと明確さを授けてくださり、私たちは再び真理の中で生きていくことができるようになるのです。もはや、隠れ、恥じる必要はありません。この信仰の上に私たちは立っているのです。

私たちが道を間違えたり、壁を作ったり、扉を閉めてしまったとしても、イエスはすべてを良いものに変えてくださいます。たとえ、扉に鍵がかかっているとしても、入って来て外へ連れ出してくださいます。

天の御父よ、私たちがあなたの聖霊で満たしてください。そして、私たちに示してください。何があなたと私を隔ててしまったのか、人々から私が離れてしまった原因は何か、あなたや他の人々を悲しませたことは何かを見せてください。また、自分自身で傷つけ、悲しみを作ってしまった原因は何かを見せてください。

主イエス・キリスト、あなたの尊い御血を、私たちの人生の中で覆い隠してしまったものの上に注ぎ、癒し、新たにしてください。そうすれば、あなたの真理と愛のうちに生きることができます。あなたが私たちのためにしてくださった全てのことに感謝します。

あなたが私たちを立ち上がらせてくださることを信じます。あなたがこの世に現存されることを信じます。癒しと助け、新しい命を与えてくださることを信じます。

主よ、あなたの祝福を皆さんの上に願います。父と子と聖霊の御名によって アーメン

追記：英語の講話から抜粋

兄弟姉妹の皆さん、私はひどい癌に侵された日本人の女性を知っています。（余命6ヶ月と宣告された）彼女は、死そのものに対する恐れはありませんでした。しかし、「このままの状態で神の御前に立った時」のことを考えて震えおののいたのです。彼女はすでに長い間告解していなかったので、「罪」が何なのかが分からなくなっていました。ですから、他の人の助けを借りて、告解のための準備を始めたのです。彼女はまだ生きています。神よ、そのことに感謝します。彼女は神の愛の証し人です。